

## 〔管内経済情勢報告〕

## 1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

（注）6年10月判断は、前回6年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、インバウンドの増加もあり、緩やかに回復しつつある。生産活動は、生産用機械などが低下しているものの、電気・情報通信機械などが上昇しており、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、有効求人倍率がおおむね横ばいで推移する中、完全失業率は低水準で推移しており、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	6年度は前年度を上回る見込みとなっている	6年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	6年度は減益見込みとなっている	6年度は減益見込みとなっている	→
住宅建設	前年並みとなっている	前年並みとなっている	→
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店販売は、国内客の回復に加え、インバウンドの増加により免税売上げが好調であるなど、回復している。

スーパー販売は、一部に節約志向がみられ、持ち直しの動きに一服感がみられる。

コンビニエンスストア販売及びドラッグストア販売は、都市部や観光地の店舗を中心に、国内観光客やビジネス客のほか、インバウンドの増加もあり、回復しつつある。

ホームセンター販売は、一部では防災対応により売上げが増加したものの、物価上昇による客足の減少がみられ、横ばいの状況にある。

家電販売は、エアコンなどが好調であり、緩やかに持ち直しつつある。

乗用車の新車登録届出台数は、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響が和らぎ、緩やかに持ち直しつつある。

旅行取扱の状況は、海外旅行は引き続き厳しい状況にあるものの、国内旅行は回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 国内売上げは長引いた猛暑を背景に盛夏ファッションが好調。免税売上げが引き続き好調であるものの、為替相場がやや円高に振れたことも要因の一つとなり、伸び率は鈍化している。(百貨店)
- 購買点数の減少やプライベートブランドがよく売れるなど節約志向が継続しているが、高付加価値商品もよく売れておりメリハリの効いた消費の動きがある。(スーパー)
- 気温が高い日が多かったため、アイスや飲料などが好調である一方、節約志向から酒類などは売りをしているドラッグストアなどに客足が向いている動きもある。(コンビニエンスストア)
- 地震への防災対応で備蓄食料品等が売れたことに加え、台風10号に備えたビニールシートや土嚢等もよく売れた。(ホームセンター)
- 猛暑が長く続いたことからエアコンが好調。また、電気代の補助が終了したことで、値段が高くても省エネ商品がよく売れた。(家電量販店)
- 認証不正問題の影響は徐々に回復しつつあり、受注の状況は堅調。(自動車販売店)
- インバウンドの増加により客室稼働率が改善している。特に京都などの観光地では客単価の上昇もあり宿泊事業は好調。(宿泊)
- 値上げは行っているものの、客数・売上げともに計画通り順調に推移。インバウンド需要はコロナ前より高い水準になっている。(飲食サービス)

#### ■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

鉱工業指数(生産)で見ると、生産用機械などが低下しているものの、電気・情報通信機械などが上昇しており、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。

- 生成AI向けデータセンターの蓄電システムが堅調。(電気機械)
- 認証不正問題による生産停止が解除となり、順調に生産が回復している。また、台風10号の影響で国内工場の稼働を一部停止したが、9月以降、挽回生産できている。(輸送用機械)
- 半導体関連の製品は、中国経済の低迷が長引いていることなどを背景に、同国の顧客による受注に落ち着きが見られる。(生産用機械)

#### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率がおおむね横ばいで推移する中、完全失業率は低水準で推移していることから、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- 売り手市場で企業を選別されている印象があり、正社員、パートともに引き合いは悪い。(ホームセンター)
- 以前から人手不足が続いている状況。派遣、アルバイトを募集しても応募はあるが、すぐに辞める人ばかりでなかなか定着する人材がいらない。(宿泊)
- バス・タクシー事業にて、運転手の不足により、顧客需要に対応できないケースも発生している。システム化等による効率化・合理化を図るとともに、引き続き、積極的に人員の確保(採用強化、処遇改善等)に努めていく。(運輸)
- 研修や定期的な面談の実施などにより、採用後の離職を防ぐための取組を行っている。(金属製品)
- 人手不足の継続により、企業の求人意識は引き続き高い一方、賃上げや待遇改善等により従業員の困り込みにも力を入れる企業が増えてきている。(人材・職業紹介)

- **設備投資「6年度は前年度を上回る見込みとなっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」令和6年7-9月期
  - 製造業では、生産用機械、鉄鋼など、ほとんどの業種で前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
  - 非製造業では、物品賃貸などが前年度を下回っているものの、運輸・郵便、電気・ガス・水道などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

- 受発注や生産管理などを国内外で統一した基幹システムの導入などの省人化投資を行い、業務効率化を図っている。（業務用機械）
- 人手不足対応として、設計図等のクラウドでの一元管理や、工事作業車の管理ツール等といったAI・IoTの活用、施工の機械化などの省力化投資を進めている。（建設）

- **企業収益「6年度は減益見込みとなっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」令和6年7-9月期
  - 製造業では、鉄鋼などが増益となるものの、化学、情報通信機械などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
  - 非製造業では、小売などが増益となるものの、卸売、建設などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

- **住宅建設「前年並みとなっている」**
  - 新設住宅着工戸数で見ると、分譲戸建などが減少しているものの、分譲マンションなどが増加していることから、前年並みとなっている。

- **輸出「前年を上回っている」**
  - 管内通関実績（円ベース）で見ると、輸出は、アジア向けの半導体等電子部品や半導体等製造装置などが増加していることから、前年を上回っている。なお、輸入も、前年を上回っている。

【その他の項目】

- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和6年7～9月期調査）の景況判断BSIで見ると、全産業では「下降」超となっている。先行きについて、6年10～12月期は、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「上昇」超の見通しとなっている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額で見ると、市町村や国などで増加していることから、前年を上回っている。
- **金融** 貸出金残高は、前年を上回っている。
- **消費者物価** 大阪市の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）で見ると、光熱・水道などが上昇していることから、前年を上回っている。
- **企業倒産** 倒産件数は、前年を上回っている。

3. 各府県の総括判断

	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較	総括判断の要点
大阪府	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
滋賀県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しつつある。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
京都府	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は回復しつつある。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
兵庫県	持ち直しのテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は持ち直している。生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢はテンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。
奈良県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は持ち直しつつある。
和歌山県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は持ち直している。生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。

## 【総括判断】「大阪経済は、緩やかに回復しつつある」

前回 (6年7月判断)	今回 (6年10月判断)	前回比較	判断の要点
緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(注) 6年10月判断は、前回6年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## 【各項目の判断】

項目	前回 (6年7月判断)	今回 (6年10月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	➡
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡
設備投資	6年度は前年度を上回る見込みとなっている	6年度は前年度を上回る見込みとなっている	➡
企業収益	6年度は減益見込みとなっている	6年度は減益見込みとなっている	➡
住宅建設	前年を上回っている	前年並みとなっている	↘

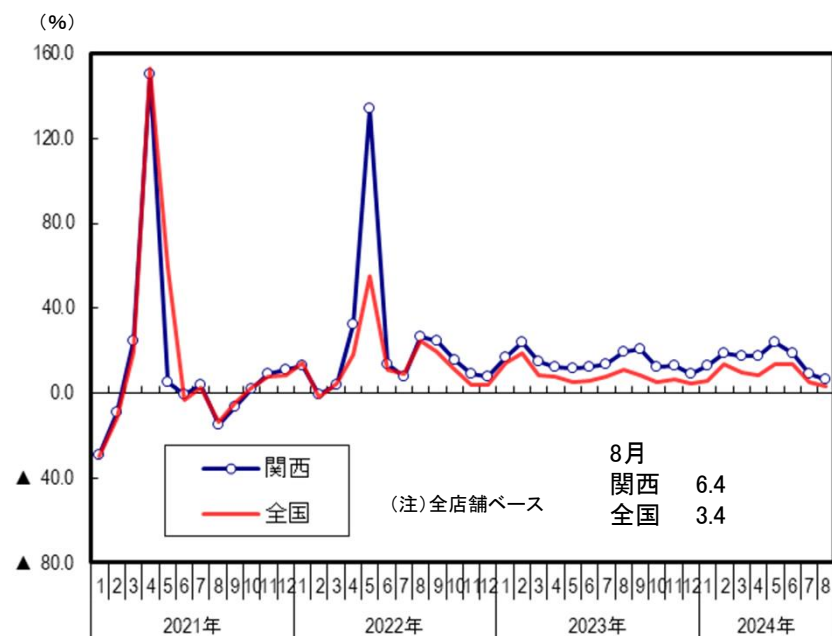
## 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

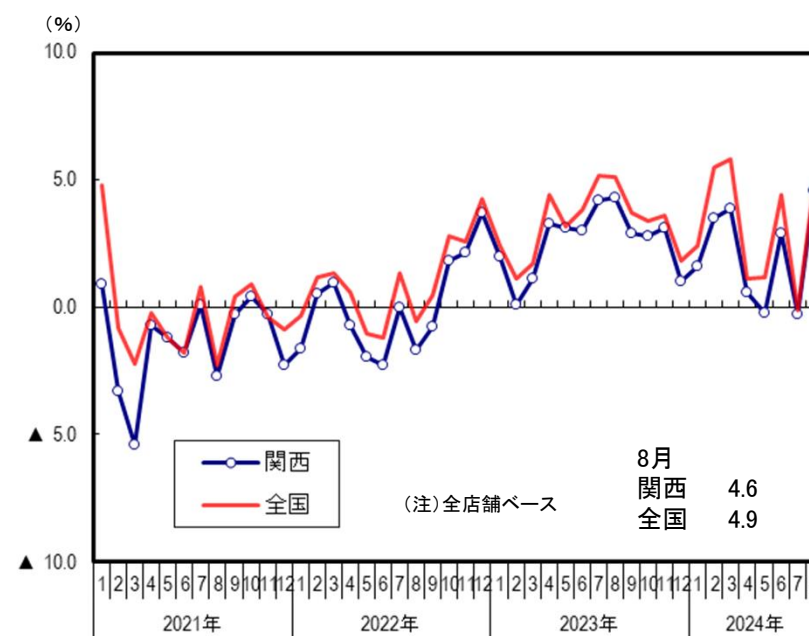
# 管内經濟情勢 資料編

近畿財務局

〔百貨店販売額(前年同月比)〕



〔スーパー販売額(前年同月比)〕



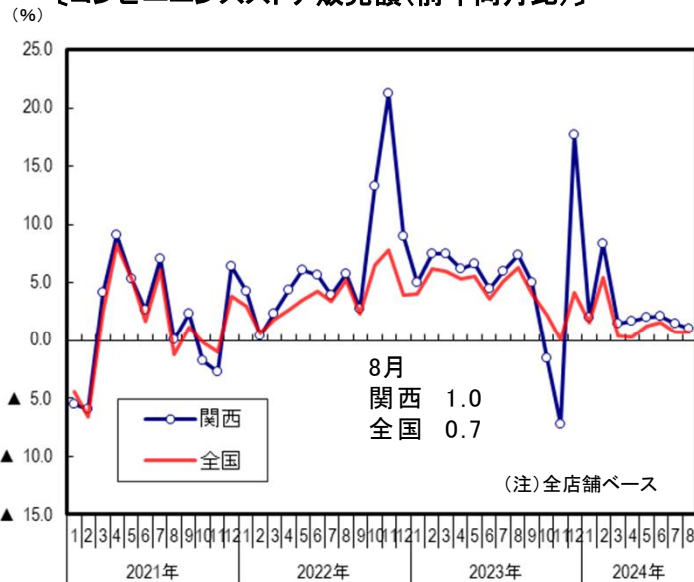
【出所】経済産業省、近畿経済産業局

百貨店販売は、国内客の回復に加え、インバウンドの増加により免税売上げが好調であるなど、回復している。  
スーパー販売は、一部に節約志向がみられ、持ち直しの動きに一服感がみられる。

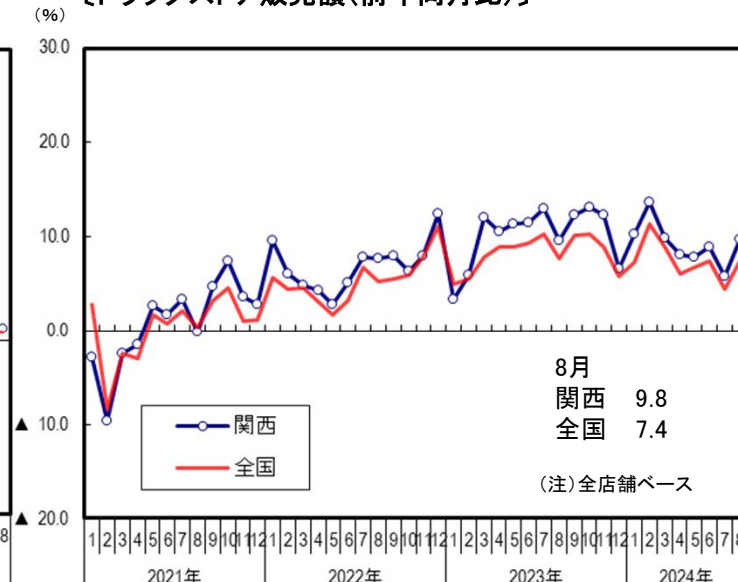
〔企業の声〕

- 国内売上げは長引いた猛暑を背景に盛夏ファッションが好調。免税売上げが引き続き好調であるものの、為替相場がやや円高に振れたことも要因の一つとなり、伸び率は鈍化している。(百貨店)
- 購買点数の減少やプライベートブランドがよく売れるなど節約志向が継続しているが、高付加価値商品もよく売れておりメリハリの効いた消費の動きがある。(スーパー)

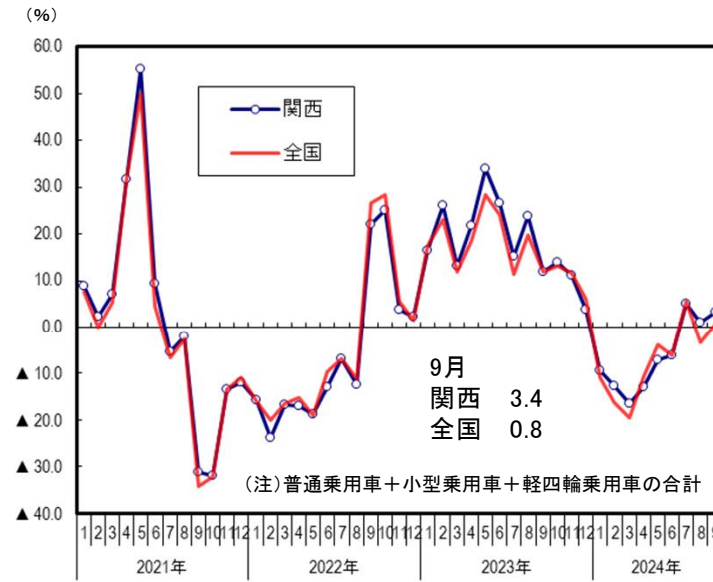
【コンビニエンスストア販売額(前年同月比)】



【ドラッグストア販売額(前年同月比)】



【乗用車新車登録届出数(前年同月比)】



【出所】経済産業省、近畿経済産業局、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

コンビニエンスストア販売及びドラッグストア販売は、都市部や観光地の店舗を中心に、国内観光客やビジネス客のほか、インバウンドの増加もあり、回復しつつある。

ホームセンター販売は、一部では防災対応により売上げが増加したものの、物価上昇による客足の減少がみられ、横ばいの状況にある。

家電販売は、エアコンなどが好調であり、緩やかに持ち直しつつある。

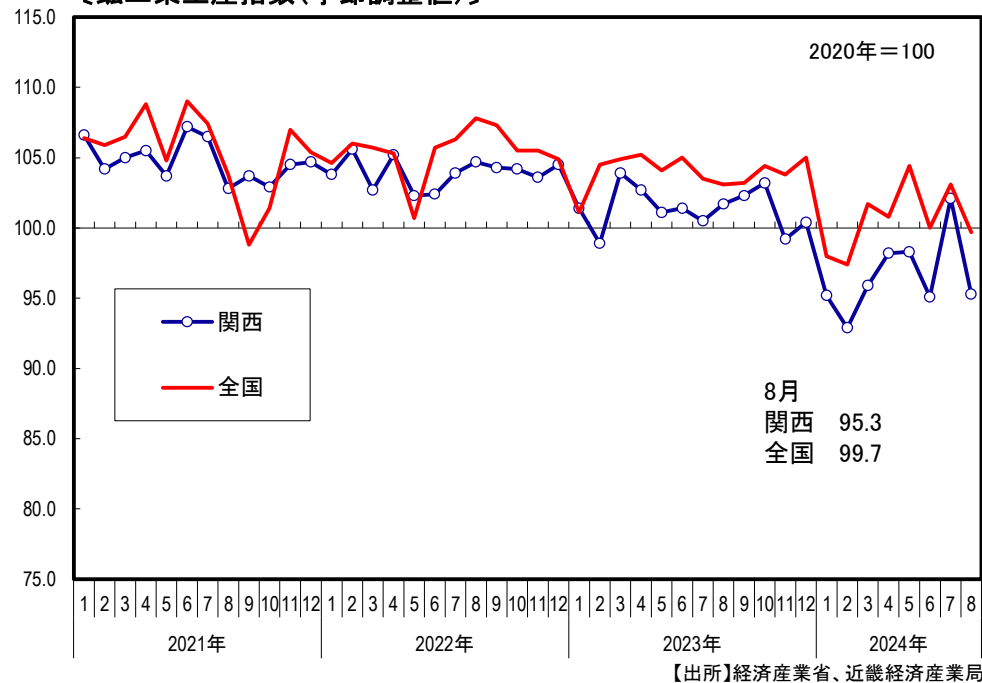
乗用車の新車登録届出数は、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響が和らぎ、緩やかに持ち直しつつある。

### 【企業の声】

- 気温が高い日が多かったため、アイスや飲料などが好調である一方、節約志向から酒類などは安売りをしているドラッグストアなどに客足が向いている動きもある。(コンビニエンスストア)
- 地震への防災対応で備蓄食料品等が売れたことに加え、台風10号に備えたビニールシートや土嚢等もよく売れた。(ホームセンター)
- 猛暑が長く続いたことからエアコンが好調。また、電気代の補助が終了したことで、値段が高くても省エネ商品がよく売れた。(家電量販店)
- 認証不正問題の影響は徐々に回復しつつあり、受注の状況は堅調。(自動車販売店)

# 生産活動 ～緩やかに持ち直しつつある～

【鉱工業生産指数(季節調整値)】



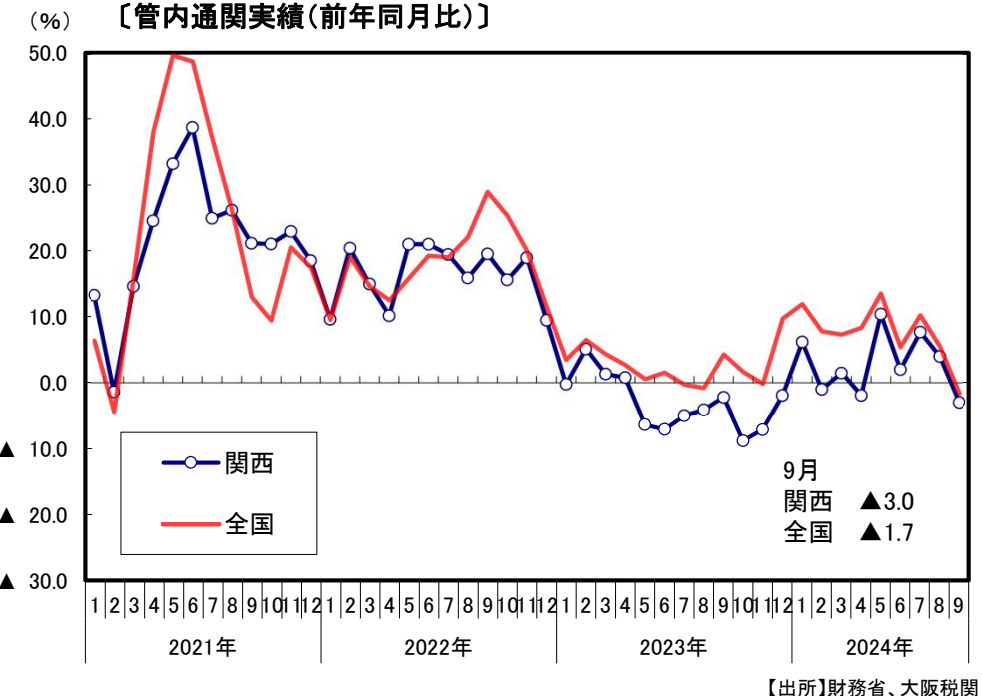
鉱工業指数(生産)で見ると、生産用機械などが低下しているものの、電気・情報通信機械などが上昇しており、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。

## 【企業の声】

- 生成AI向けデータセンターの蓄電システムが堅調。(電気機械)
- 認証不正問題による生産停止が解除となり、順調に生産が回復している。台風10号の影響で国内工場の稼働を一部停止したが、9月以降、挽回生産できている。(輸送用機械)
- 半導体関連の製品は、中国経済の低迷が長引いていることなどを背景に、同国の顧客による受注に落ち着きがみられる。(生産用機械)

# 輸出 ～前年を上回っている～

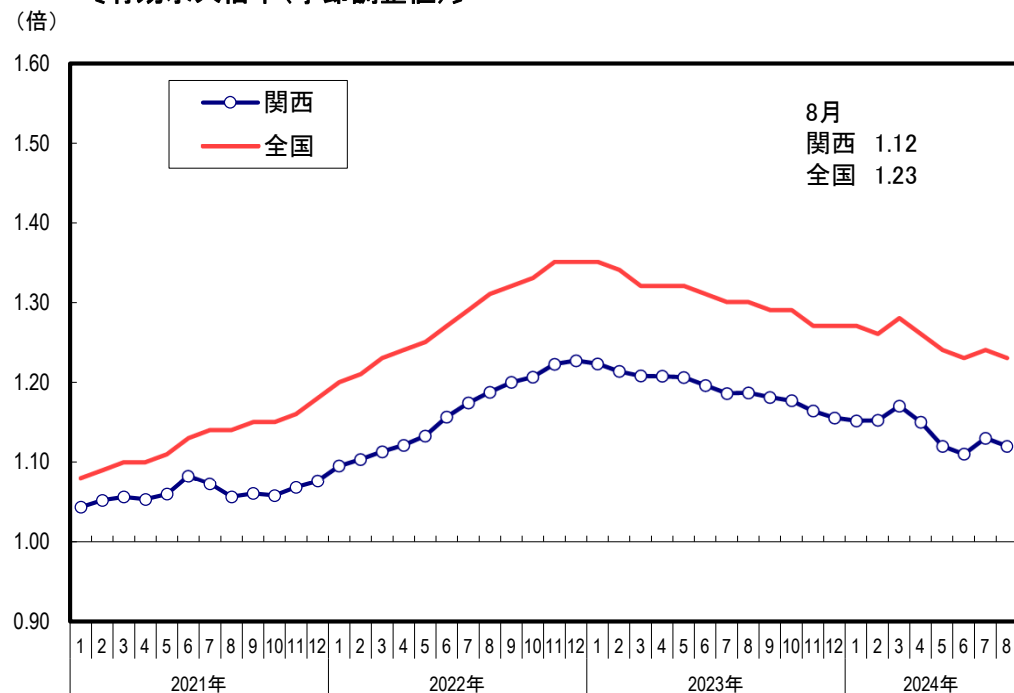
【管内通関実績(前年同月比)】



管内通関実績(円ベース)で見ると、輸出は、アジア向けの半導体等電子部品や半導体等製造装置などが増加していることから、前年を上回っている。なお、輸入も、前年を上回っている。

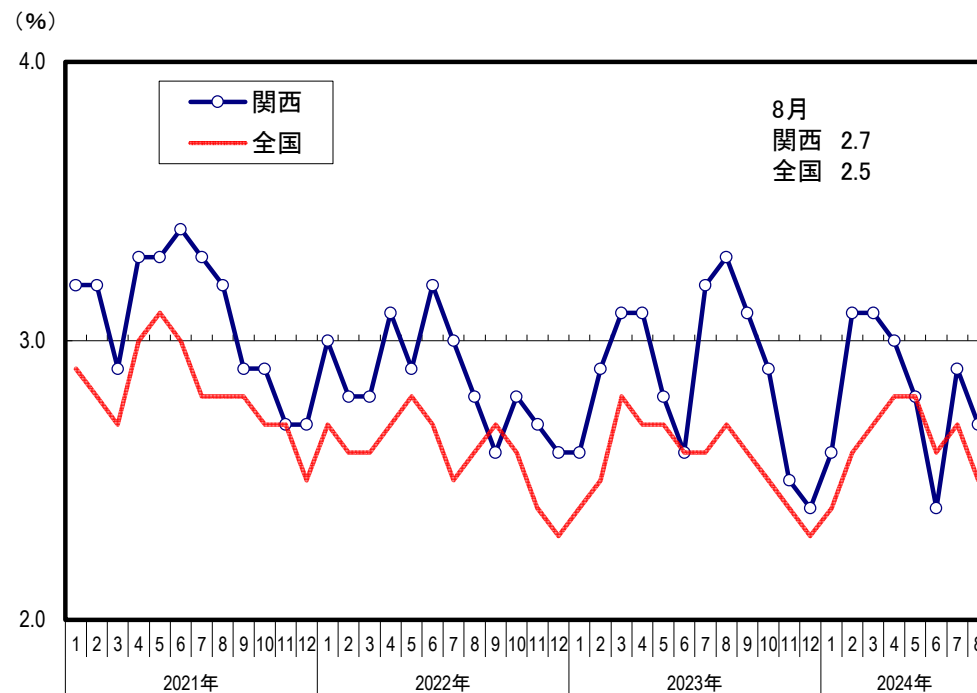


〔有効求人倍率(季節調整値)〕



【出所】厚生労働省

〔完全失業率(原数値)〕



【出所】総務省

有効求人倍率がおおむね横ばいで推移する中、完全失業率は低水準で推移していることから、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

〔企業の声〕

- 売り手市場で企業を選別されている印象があり、正社員、パートともに引き合いは悪い。(ホームセンター)
- 以前から人手不足が続いている状況。派遣、アルバイトを募集しても応募はあるが、すぐに辞める人ばかりでなかなか定着する人材がない。(宿泊)
- バス・タクシー事業にて、運転手の不足により、顧客需要に対応できないケースも発生している。システム化等による効率化・合理化を図るとともに、引き続き、積極的に人員の確保(採用強化、処遇改善等)に努めていく。(運輸)
- 研修や定期的な面談の実施などにより、採用後の離職を防ぐための取組を行っている。(金属製品)
- 人手不足の継続により、企業の求人意識は引き続き高い一方、賃上げや待遇改善等により従業員の囲い込みにも力を入れる企業が増えてきている。(人材・職業紹介)